

平成28年10月定例記者会見

日時：平成28年10月18日（火）13：30～

場所：本学事務局3階第1会議室

内容：

1. 国際技学共同教育研究推進室の設置について
～産金官学連携活動の更なる推進を目指して～
溝上 勝也 国際技学共同教育研究推進室長
2. 『起業セミナー』の開催について
～丸山健一氏（五稜化薬(株)代表取締役社長）と
三浦淳一氏（北海道ベンチャーキャピタル(株)代表取締役社長）
との対談～
片川 真実 技学イノベーション推進センター教授
3. 学生サークル「TEC」 楽しい教室（後期）について
佐藤 春奈 経営情報システム工学課程3年
4. 平成28年度実務訓練について
萩原 誠 学務課副課長

以 上

国際技学共同教育研究推進室の設置について

～産金官学連携活動の更なる推進を目指して～

平成28年10月に、本学事務局に、下記の通り国際技学共同教育研究推進室を設置いたしましたので、ご報告いたします。

記

1. 名称

国立大学法人長岡技術科学大学事務局「国際技学共同教育研究推進室」

2. 設置目的

産金官学連携活動の更なる推進を目指し、「グローバル産学官融合キャンパス」の構築、発展に資することを目的といたします。

3. 特記事項

設置にあたり、産金官学連携をより深めるため、株式会社大光銀行様から銀行員1名の派遣(研修出向)を受け入れていただきました。

今後の産金官学連携協力体制の更なる強化を図るとともに、地域人材の交流を通じた人脈構築等を活性化させることにより、地域全体の更なる発展を企図いたしております。

以上

“日本発、
世界初”

“北海道発、
ビジネスの創造で
革新に挑戦”

Hokkaido → World



五稜化薬株式会社
代表取締役 丸山 健一 氏



北海道ベンチャーキャピタル株式会社
代表取締役 三浦 淳一 氏

長岡技術科学大学 起業セミナー

[実施日時] 2016年11月1日(火) 16:20~17:50

[実施場所] 長岡技術科学大学

マルチメディアシステムセンター

開会挨拶 長岡技術科学大学 学長 東 信彦

閉会挨拶 長岡技術科学大学 副学長 三上 喜貴

～ 北海道から世界へ羽ばたく企業を担う2人が、長岡技科大で語る！！～

参加費:無料(事前申し込み不要)

[主催]



長岡技術科学大学

丸山 健一 氏

博士(工学)、経営学修士(MBA)。徳島大学大学院
工学研究科物質工学専攻 博士後期課程修了。
慶應義塾大学理工学部応用化学科 助教、慶應義塾大
学大学院経営管理研究科 修士課程修了。
(株)日本テクノロジーベンチャーパートナーズ(NTVP)
マネージャー、五稜化薬株式会社 代表取締役。

三浦 淳一 氏

中小企業診断士。北海道大学経済学部卒業。
創業期より道内での中小企業者向け直接金融業務に従
事。2002年から2005年、北海道初の民間インキュベ
ション(起業家支援施設)「SIZ“シーズ”」の開設、運営に
も中心的に携わり、現在も起業家、ベンチャー企業の伴
走者として経営サポートをするほか、中小企業数社の役
員を兼務し、取締役会への参加など積極的な経営参画に
よる企業支援を実践している。

お問合せ先 : 長岡技術科学大学 総務部 産学・地域連携課 産学・地域連携係(受付時間:9:00~17:00)

TEL:0258-47-9278 FAX:0258-47-9040 E-MAIL:sangaku@jcom.nagaokaut.ac.jp

報道資料

平成28年10月18日

報道機関各位

長岡技術科学大学
経営情報システム工学課程3年
佐藤 春奈

学生サークル「TEC」楽しい教室（後期）について

1. 概要

私たち Technical Education Circle (TEC) は、「子どもたちに科学の楽しさを」をモットーに、図書館等の公共施設や小学校にて理科実験ショーや工作教室を行う学生サークルです。

このたび、TECは長岡市青少年文化センターから依頼を受けて、「楽しい教室（後期）」の講師を務めさせていただくことになりました。楽しい教室は、長岡市青少年文化センターにて小学生を対象に前期と後期の2回開講される定員制の体験教室です。数種類の体験教室が開かれ、複数回の講義を毎週末に行います。

TECは毎年、前後期ともに「ロボコン入門教室」と「理科実験教室」の2教室の講師を務めさせていただいております。楽しい教室は10月1日（土）から順次開講され、ロボコン入門教室は毎週土曜日に全8回、理科実験教室は毎週日曜日に全5回行われます。楽しい教室を通して、子どもたちにより科学が好きになっていただけるよう、工作の手順や理科実験の内容について日々試行錯誤を重ねております。

2. 楽しい教室の年間スケジュール

【前期】

- 4月：参加者人数、講義内容の決定
- 5月：楽しい教室開講
- 6月：楽しい教室終了

【後期】

- 9月：参加者人数、講義内容の決定
- 10月：楽しい教室開講
- 11月：楽しい教室終了



3. 教室内容

◇ロボコン入門教室

ロボコン入門教室は、前期と後期で講義内容が異なります。前期は小学校高学年を対象に、ながおか小学生ロボコン用のロボットキットの製作、後期は小学校低学年を対象に、市販の電子工作キットの組み立てや簡単な木工工作を行っています。

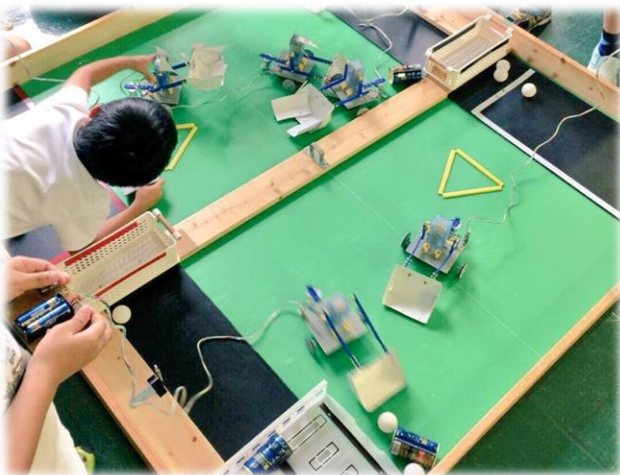
NPO 法人にいがたエジソン学園様と協力して作成するロボットを用意し、子どもたちは説明書を読み進めながら、自分たちの力で工夫しながらつくり、TEC は工作の補助を行います。ロボット完成後は実際にロボットを操作しながら、余った部品や持ち込んだ材料等を組み合わせて、子どもたちの個性を活かしたロボットを作成します。ロボットがうまく動かなかった時は、なぜ動かなかったのかを一緒に考えながら、問題を解決できるよう導きます。

単にロボットの組み立てだけではなく、この教室を通してニッパや半田ごて等の工作道具の使用法を学び、実生活でも利用できるように指導しています。

◇理科実験教室

理科実験教室は、講義ごとに異なるテーマを決め、子どもたちと一緒に実験を進めます。実験内容は「地震と建物について学ぼう」や「ミョウバン結晶をつくろう」、「液体窒素でバナナを凍らせよう」など多岐にわたります。実験内容はメンバーが事前に調べて原理を理解し、子どもたちに分かりやすくなるよう工夫して解説します。

小学校の授業とは異なり、実験を軸に講義を進め、子どもたちに楽しんでもらいながら、何か新しいことを知ってもらえるよう活動しています。実際に目の前で実験を行うことで、驚きや発見をしてもらい、そこから科学への興味につながるような講義作りに取り組んでいます。



<お問い合わせ先>



Technical Education Circle (TEC)

代表 佐藤 春奈

URL : <https://sites.google.com/site/nagaokatec/>

メール : tec.nagaokaut@gmail.com

報道資料（実務訓練）

平成28年10月18日

報道機関各位

長岡技術科学大学

【実務訓練】学部4年生376名の5か月の長期インターンシップ派遣について
－10月から2月まで、国内企業等317名、海外企業等59名派遣－

1. 実務訓練の概要

本学では、実践的・指導的技術者の育成を目的として、学部から大学院修士課程までを一貫とする教育プログラムを実施しています。この中で、実務に習熟し、実務における問題意識と大学院での研究を関連づけ、技術の開発を実践できるよう、修士課程進学予定の学部4年生全員に約5か月間（海外派遣は約6か月間）の企業等における長期のインターンシップである『実務訓練』を必修科目として課し既に38年目となります。

開学以来、約11,900名の学生が実務訓練を履修しており、平成2年度からは社会のグローバル化に適した人材養成を図る事を目的に、海外の機関においても実務訓練を実施しています。

2. 実務訓練の目的・目標と特徴

■目的・目標

1. 実践的・技術的感覚を養うこと。
2. 組織の中で働くことによって、技術に対する社会の要請を知り、学問の意義を認識するとともに、自己の創造性発揮の場を模索すること。
3. 社会において学理と技術が総合的に応用される場を体験することにより、自己の能力を展開し練磨すること。
4. 技術に対する問題意識を養い、大学院課程における基礎研究及び開発研究の自立性を高めること。
5. 異文化体験、コミュニケーションの重要性を学び、国際性豊かな指導的技術者の素養を涵養すること。

■特徴

1. 長期間のインターンシップであるため、学生はいわゆるお客さんではなく、派遣先で業務を任されるケースがほとんどである。そのため、実務訓練から戻った学生は、企業での現場経験を活かし、社会のニーズを意識した、より実践的な研究を行えるセンスを身につけて帰ってくる。
2. 本学学生は、実践的な技術者としての教育を受けてきていることから、企業にとってもプラスな面も多く、このことが40年近くにわたり企業等から継続して学生を受け入れていただいている理由でもある。
3. 今年度は全体の約16%にあたる59名が海外企業等に派遣され、約6か月間の

長期にわたって海外でのインターンシップを実施するのは大学では稀有な存在である。海外実務訓練は、国際感覚を身につけたグローバルに活躍できる技術者の育成のための有効なプログラムである。

4. 学生を企業等に派遣するに当たっては、あらかじめ学生個々に実務訓練のテーマを与え、派遣学生及び受入れ企業側の担当者と密に連絡を取りながら、的確に指導を行い、効果的に教育が行えるよう計画を立てている。
5. 本学の専門系のほぼ全教員が、実務訓練受入れ機関の開拓・担当を行い、全学を挙げて実施しているプログラムである。

3. 平成28年度の実務訓練実績について（10月7日開始時点）

受入機関数 260機関（うち海外34機関）

派遣人数 376名（うち海外59名）

《海外派遣学生内訳》

	海外派遣先国名	派遣学生数
1	イギリス	2
2	インド	10
3	インドネシア	1
4	オーストラリア	2
5	韓国	2
6	コスタリカ	1
7	スペイン	4
8	スリランカ	1
9	タイ	22
10	ドイツ	1
11	ノルウェー	1
12	ベトナム	4
13	マレーシア	3
14	メキシコ	5
合 計		59